

卒業研究の評価方法

建築学科の卒業研究は論文系と設計系に分かれるため、評価方法を区分する。

(1) 論文系

中間発表(10%)、最終発表(10%)、論文(50%)、梗概(10%)、指導教員による口頭試問(10%)、研究態度(10%)を論文系の複数の指導教員で評価する。(括弧内は評価比率)

(2) 設計系

中間発表(10%)、最終発表(10%)、図面(50%)、梗概(10%)、指導教員による口頭試問(10%)、研究態度(10%)を設計系の複数の指導教員で評価する。(括弧内は評価比率)

(3) 口頭試問は中間発表前後2回に行う。

(4) 学生は、研究の取り組みを日誌に記録する。

建築設計演習2年

(1) 通年で前期、後期1課題ずつ、計2課題を課し検印を受けた原図の青焼き図面の提出をもって合格とする。なお、未提出図面がある場合は59点以下の不合格とする。

(2) 点数配分は前期40%、後期60%の傾斜配分とする。

(3) 各課題の評価基準は下記の通り。

<前期>

建築図面の意味と役割が理解でき、正確な作図ができているか(10%)

線種の意味が理解でき、かつ適切な使い分けができているか(10%)

図面内のレイアウトが適切で丁寧な作図ができているか(10%)

授業態度が良好で提出期限なども守られているか(10%)

<後期>

課題の条件を十分理解し、問題解決のための提案に至っているか(10%)

住宅設計の基本を理解し、設計に生かしているか(10%)

線種の意味が理解でき、かつ適切な使い分けができているか(10%)

建築図面の意味と役割が理解でき、的確な図面表現ができているか(10%)

図面内のレイアウトが適切で丁寧な作図ができているか(10%)

授業態度が良好で提出期限なども守られているか(10%)

建築設計演習3年

(1) 複数課題の取り組みを評価する。1課題でも未提出の場合は59点以下の不合格。

(2) 複数課題の評価割合は、取り組み時間で決定する。

(3) 1課題の評価基準は

1. 課題の条件理解、(10%)

2. 問題解決のための提案、コンセプト(10%)

3. 正確な図面表現、(20%)

4. 図面のプレゼンテーション(提案を伝達する最適な表現)(20%)

5. 図面への描き込み、密度(20%)

6. 課題への取り組み姿勢、提出期限(20%)

建築設計演習 4 年

(1) 複数課題の取り組みを評価する。1 課題でも未提出の場合は 59 点以下の不合格。

(2) 複数課題の評価割合は、取り組み時間で決定する。

(3) 1 課題の評価基準は

課題の条件理解、問題解決のための提案、コンセプト (20%)

正確な図面表現、プレゼンテーション (20%)

図面への描き込み、密度 (20%)

提案建築のデザイン性 (20%)

課題への取り組み姿勢、提出期限 (0%~20%)

(4) 提出期限を厳守しない場合は、取り組み姿勢、提出期限の割合を 0%まで下げることがある。(最高点 80 点とする。)

建築設計演習 5 年

(1) 半期で 2 課題を課し検印を受けた原図のコピーまたは青焼き図面の提出をもって合格とする。なお、未提出図面がある場合は 59 点以下の不合格とする。

(2) 成績評価は設計製図課題(90%)+授業態度(10%)

※設計製図課題評価(100%)=課題1(50%)+課題2(50%)

(3) 各課題の評価基準は下記の通り。

出題内容を理解し、適切な回答をしているか (20%)

適切な図面表現がなされているか (80%)

建築工学実験

各実験毎のレポート点の合計 (90%) + 授業態度 (10%)

[レポート評価の内訳]

期限内に提出されている。(20%)

提出すべき必要な資料、各項目の書き込みが揃っている。(20%)

結果の表現が工夫されている(図表などが見やすく、丁寧である)。(20%)

定量的な考察(比較)がある。(20%)

他の授業での知識、参考文献などに基づいて深い考察を加えている(20%)。

※1 未提出は0点、不参加(欠席)実験のレポート提出は認めない。

※2 実験毎のボリュームや期間を考慮して、各レポート評点に重み付けをする。

建築総合演習

この科目は、複数教員(複数テーマ)による実習、実験を行うものである。

(1) テーマごとのレポート(90%)、授業態度(10%)等を評価し、最終的に全テーマの総合点で評価する。

- (2) レポートの評価基準は
提出期限 (20%)
必要記載事項の書き込み (20%)
プレゼンテーション (見やすさ、適切な図表表現など) (30%)
考察 (他の科目の知識、文献に基づく深い考察を含む) (30%)
ただし、グループでの提出物があるテーマの場合は、グループ評価 10%を加点調整する。
- (4) 1テーマでもレポートが未提出の場合は59点以下の不合格とする。

特別設計演習

中間発表 (20点)、完成作品発表会 (プレゼンテーション: 10点、作品の内容30点)、最終作品発表会 (プレゼンテーション: 10点、作品の内容30点) で評価する。(担当教員による採点の平均で評価)
デザコンに応募できなかった場合、またデザコンに応募できるレベルに達しないと判断された場合は合格できない。